

麦作技術情報 No. 3

令和7年3月26日
鳥取県産米改良協会

令和7年産(令和6年11月11日農試場内播種)しゅんれいは、播種時期が遅かった影響で止葉の抽出が遅れており、現時点の止葉葉耳間長による出穂期予測は4月4日となった。今後、前年(11月8日播種)及び平年(11月4日播種)と比較してやや遅い出穂予測日を見込んでいるが、播種日の早遅が出穂に大きく影響する一方で、以降の高温により生育進捗が早まる可能性があるため、病虫害防除等の適期を逃さないようにほ場を観察し、管理を徹底することが重要である。

■病虫害防除

- ・ほ場ごとに出穂期に応じて適期防除を行う。
- ・赤かび病の発病によって、収量や品質が低下するばかりでなく、人や家畜に有毒なかび毒を発生するため、予防防除を徹底するよう努める。
- ・オオムギ網斑病の病勢が進展する時期であるため、発生を見たら、適期防除に努める。
- ・コムギ黄斑病は早期発見に努め、状況に応じた対応を行う。特に、前年産小麦において本病が多発生したほ場や連作ほ場では、発生状況に注意する。

■排水対策

- ・湿害は出穂後の登熟に悪影響を及ぼす。特に登熟に大きな役割を果たす麦の細根の発達を阻害し、登熟不良の原因となる。
- ・排水路の点検等を定期的に行い、明渠と排水路をつなぎ、表面水が速やかに排水されるように努め、湿害を受けない環境を作ることが重要である。

【現在までの気象経過】

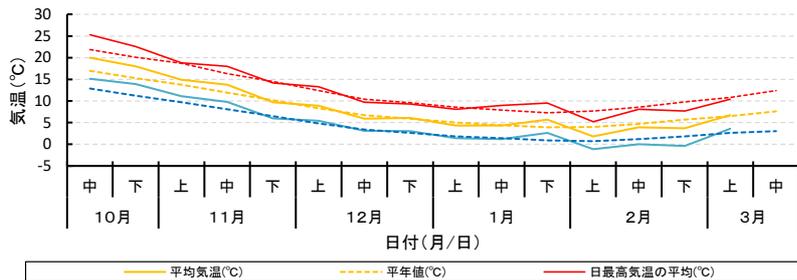


図1. 日平均気温旬別平均値の推移(2024~2025倉吉市アメダス)

11月中旬まで高温傾向が続き、1月中下旬に高温となる時期があった。2月に一時的な低温と積雪が見られたものの、全般には平年並の期間が多かった。

播種適期の11月上旬に降水が多く、播種作業の遅れが見られた。11月中旬以降は平年並からやや少ない降水量で推移し、積雪量及び根雪期間も短い傾向であった。

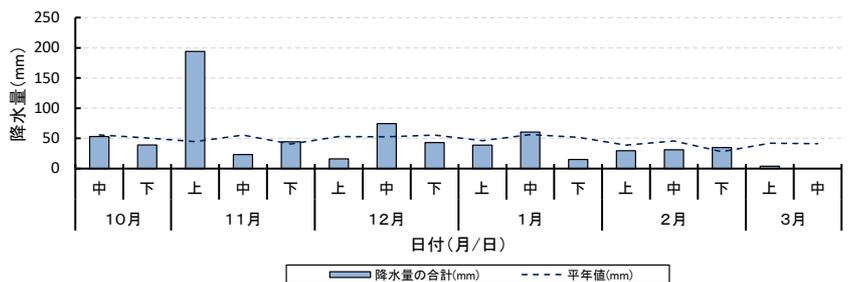


図2. 降水量旬別合計値の推移(2024~2025倉吉市アメダス)

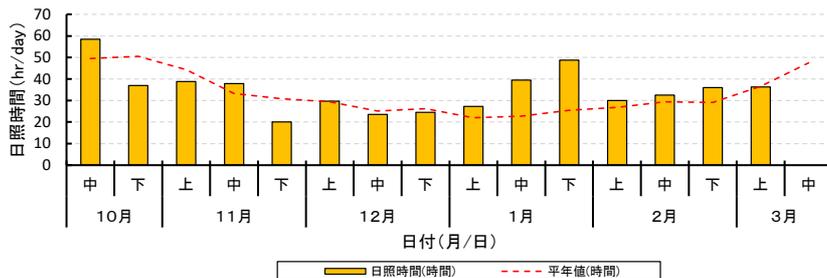


図3. 日照時間旬別合計値の推移(2024~2025倉吉市アメダス) - 1 -

11月下旬に日照時間が短い期間があったが、初期生育全般において日照時間は平年以上で経過した。

I 気象予報

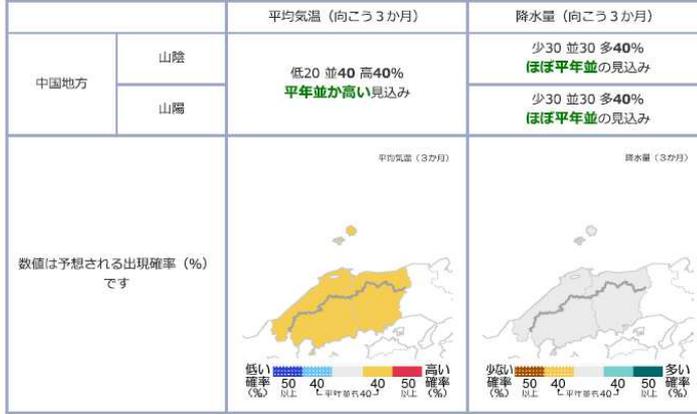
3か月予報（2025年3月25日発表）の解説 広島地方気象台

向こう3か月の天候の見通し 中国地方（4月～6月）

予報のポイント

- 向こう3か月の気温は、期間の後半を中心に暖かい空気に覆われやすいため、平年並か高いでしょう。

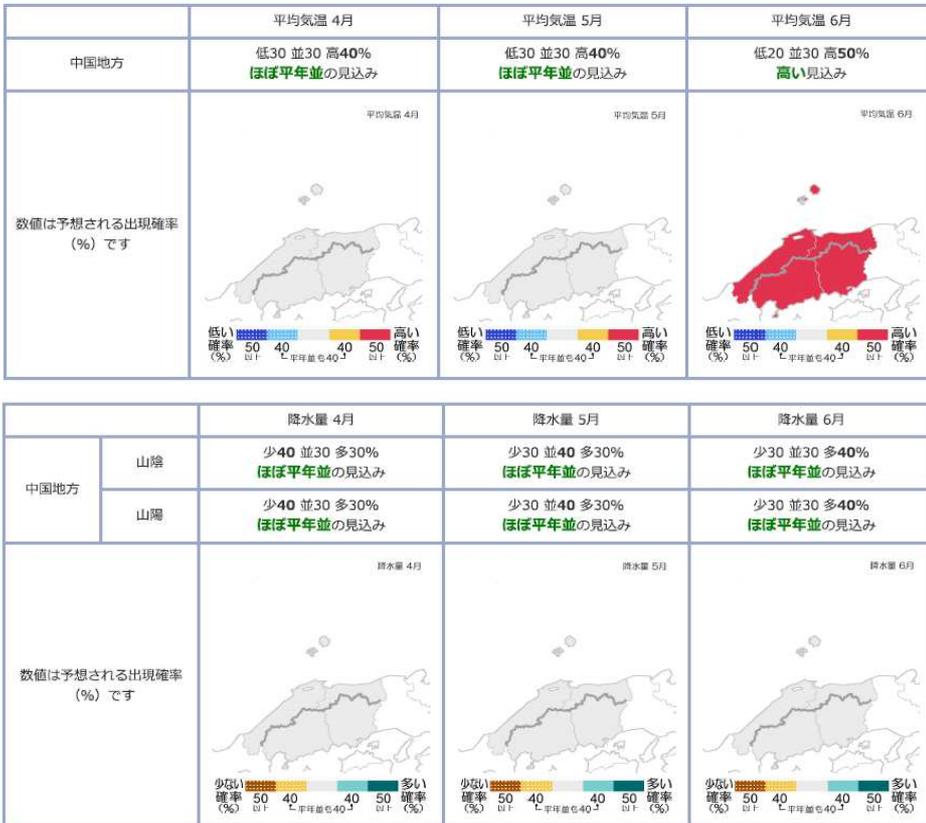
向こう3か月の平均気温・降水量



月別の天候

4月	• 天気は数日の周期で変わり、平年と同様に晴れの日が多いでしょう。
5月	• 天気は数日の周期で変わり、平年と同様に晴れの日が多いでしょう。
6月	• 平年と同様に曇りや雨の日が多いでしょう。

月別の平均気温・降水量



II 「しゅんれい」(二条大麦)の生育概況

【現地ほ場】

- ・播種の遅れが見られたものの、全般的に生育は順調で、一部で湿害等による生育不良が見られるが分けつは確保されている。特記すべき病害虫の発生は見られていない。
- ・倉吉市及び北栄町の「しゅんれい」における、3月25日時点の出穂期予測結果は、11月11～12日播種ほ場4月6～9日の予測となっており、平年と比較してやや遅い状況である。

【農業試験場生育観測ほ場】

- ・農業試験場11月11日播種「しゅんれい」は、3月12日時点で主稈葉数7葉程度となっており、過去の葉齢累年値と比較すると平年の止葉葉位に達するまで期間を要している。3月7日時点での節間長は18mmであるため、茎立期は3月中旬と推測され、3月21日時点では61mmとなったが、前年(11月8日播)と比較して茎立期の到達がやや遅い状況であった。今後の高温によって生育進捗が早まる可能性はあるが、平年と比較して遅い出穂が見込まれる。播種後約4か月の生育量については、平年に比べて草丈が短いものの、茎数は多く、葉色は平年並からやや濃い状況である。

表 ビール麦「しゅんれい」の生育状況(播種後約4か月:3月中旬)

項目	単位	R2年産	R3年産	R4年産	R5年産	R6年産	R7年産	過去 平年比(差)
茎数	(本/m ²)	986	803	724	879	1144	1089	120
草丈	(cm)	45.8	27.2	17.8	26.8	49.1	22.3	67
葉色	SPAD	45.5	46.3	49.9	44.8	40.4	47.0	104
葉齢	(葉)	10.7	9.8	8.0	10.0	9.7	7.2	-2.4

表 ビール麦「しゅんれい」における過去の出穂期(農業試験場内11月上旬播種)

産年	出穂期 月日
R1年産	3月30日
R2年産	3月21日
R3年産	4月1日
R4年産	4月14日
R5年産	3月27日
R6年産	4月2日
過去5年平均	3月28日

※R4年産は11月中旬播種のため平均値より除外。

III 技術対策

1 排水対策

- ・登熟期の湿害は収量や品質に悪影響を及ぼす。
- ・大麦の等級が低下する格付理由は、充実が劣る等の場合が多い。充実度が低下する要因の一つとして登熟期の湿害の影響が大きいことから、冬季に明渠等が埋まって排水を阻んでいないか、排水状況を点検し、手直しを行うことで、速やかに排水を促す。

2 病害虫防除

- ・乳剤、水和剤、フロアブル製剤、ゾル製剤を地上散布する場合は、必ず展着剤を加用する。

(1)オオムギ網斑病

- ・葉色の濃い過繁茂ほ場では、特に注意が必要である。
- ・発生ほ場では、病気がまん延する前にチルト乳剤 25(1,000倍、収穫21日前まで、1回)等を散布する(地上散布する場合は展着剤を加用のこと)。

(2)うどんこ病

- ・高温傾向で多発する病害で、現在のところ発生した情報は伝えられていないが、動向に注意し発生を確認した場合は防除を行う。

(3)赤かび病

- ・赤かび粒に対する検査基準が厳しくなっており、令和6年産は開花期頃の降雨の影響で本病が多発したほ場が見られたため、天候の推移を注視しながら防除を徹底する。
- ・本病は、出穂期以降の高温(20～27℃)、降雨により発生が助長され、発生すると出荷できなくなるので、すべてのムギで防除の徹底が必要である。また、発病後の防除は困難であるので、下表のとおり適期防除を徹底する。

赤かび病防除対策

	麦種	防除時期	農薬名
1回目	二条大麦	穂揃期の10日後頃	シルバキュアフロアブル または ワークアップ粉剤DL
	六条大麦	開花を始めた時期～開花期	
	小麦	〃	
2回目	二条大麦	1回目散布の7～10日後 (多発生が予想される場合)	トップジンM水和剤 または トップジンM粉剤DL
	六条大麦	1回目散布の7～10日後	
	小麦		

(注)

- ・多発生条件下では、シルバキュアフロアブル、トップジンM水和剤、トップジンMゾル、ワークアップフロアブルおよびミラビスフロアブルの防除効果が高い。
- ・乳剤、水和剤、フロアブル製剤、ゾル製剤を地上散布する場合は、展着剤を加用する。
- ・大麦ではチオファネートメチル剤(トップジンM水和剤、同ゾル、同粉剤DL等)の使用回数は出穂期以降1回以内となっているので注意する。

使用基準(赤かび病)

農薬名	使用量	使用時期	本剤の使用回数
シルバキュアフロアブル	2,000倍	大麦:収穫14日前まで	2回以内
		小麦:収穫7日前まで	2回以内
ワークアップフロアブル	2,000倍	収穫7日前まで	3回以内
ワークアップ粉剤DL	3kg/10a		
トップジンM水和剤	1,000～1,500倍	大麦:収穫30日前まで	3回以内(出穂期以降は1回以内)
		小麦:収穫14日前まで	3回以内(出穂期以降は2回以内)
トップジンMゾル	1,500倍	収穫14日前まで	3回以内(出穂期以降は1回以内)
	1,000～1,500倍		3回以内(出穂期以降は2回以内)
トップジンM粉剤DL	4kg/10a	収穫14日前まで	大麦:3回以内(出穂期以降は1回以内)
			小麦:3回以内(出穂期以降は2回以内)
ミラビスフロアブル	1,500～2,000倍	大麦:収穫14日前まで	2回以内
		小麦:収穫7日前まで	

(4)コムギ黄斑病 【参考】R6年度病害虫発生予察指導情報

R7年3月17日鳥取県病害虫防除所

- ・3月17日現在、県内の一部の地域でコムギ黄斑病の発生が確認されている。
 - ・赤かび病の1回目の防除時期（開花始～開花期）までに病斑が確認される場合は、上位進展前にアミスター20フロアブル等を散布する。
 - ・ワークアップフロアブル等により赤かび病との同時防除を行う。
 - ・フロアブル製剤を地上散布する場合は、展着剤を加用する。
- ※特に令和5年播きコムギにおいて本病が多発したほ場及び連作ほ場では、発生状況に注意する。

【参考】

令和6年度病害虫発生予察指導情報

対象病害虫：コムギ黄斑病（No. 1）

令和7年3月17日
鳥取県病害虫防除所

1 情報の内容

3月16日現在、県内の一部の地域でコムギ黄斑病の発生が確認されている。ほ場の見回りなどを行って早期発見に努め、状況に応じた対応を行う必要がある。特に令和5年播きコムギにおいて本病が多発生したほ場では、発生状況に注意する。

2 防除対策

- ・赤かび病の1回目の防除時期（開花始～開花期）までに病斑が確認される場合は、上位進展前（3月半ば以降）にアミスター20フロアブル等を散布する。
 - ・ワークアップフロアブル等により赤かび病との同時防除を行う。
- ※特に令和5年播きコムギにおいて本病が多発したほ場では、発生状況に注意する。

3 防除上注意すべき事項

- (1) 本病の一次伝染源は被害残渣であり、下位葉に発生したのちに上位進展する。
- (2) 一般的に前作が畑作物のほ場やコムギ連作ほ場は、前作が水稻のほ場と比較して、発生が多い。
- (3) 防除に当たっては、農薬の使用基準を遵守するとともに、使用上の注意事項を守り、散布作業者の安全の確保に努める。



【参考】発生初期の病斑

3 新品種「はるさやか」への転換

ビール麦奨励品種は、令和7年秋播を目途に「しゅんれい」から「はるさやか」へ全面転換することが決定しています。令和6年秋播では、採種ほにおいて原種及び農家播種用種子の増殖を図っており、現時点で順調に生育しています。

二条大麦奨励品種候補「はるさやか」の選定

1 情報・成果の内容

(1) 背景・目的

鳥取県で作付けされている二条大麦「しゅんれい」は、収量・品質が安定している一方で、オオムギ縮萎縮病を引き起こすウイルスⅠ～Ⅴ型の内、Ⅲ型に罹病性である。本県でⅢ型の発生は確認されていないが、近県では発生が相次いでおり、抵抗性品種への切替が最も有効的な対策であることから、Ⅰ～Ⅴ型に抵抗性を有し、かつ栽培特性に優れた品種を選定する。

(2) 情報・成果の要約

「はるさやか」は、オオムギ縮萎縮病Ⅰ～Ⅴ型に抵抗性を備えており、11月上中旬播きの栽培特性は、成熟期は3日早く、穂数は並、千粒重は大きく、多収で、容積重は大きく、粒張りに優れ、品質は並である。

2 試験成果の概要

「しゅんれい」と比較した「はるさやか」の特性は以下のとおりである。

- (1) 出穂期は6日、成熟期は3日早い(表1)。
- (2) 稈長、穂長は並で、倒伏程度も並である(表1)。
- (3) 穂数は並だが、千粒重が大きく多収である(表1)。
- (4) 容積重が大きく粒張りに優れ、外観品質及び検査等級は並である(表1)。
- (5) タンパク質含有率は1%程度低いが、ビール麦の基準値内である(表1)。
- (6) 現地における栽培特性は、千粒重がやや小さかったもの、その他の項目では、農業試験場内と類似した結果が得られ、穂数がわずかに多く多収で品質は並である(表2)。
- (7) 現地産サンプルを用いた、実需の麦茶加工適性評価は並である(データなし)。
- (8) 2018～2019年のビール会社による製麦・醸造試験の結果に問題はなく、2020年にビール会社の契約対象品種となる「指定品種」に採用されている(データなし)。



図1. 「はるさやか」の株及び穂標本

○農作業事故防止を徹底しましょう！

3月1日～5月31日まで春の農作業安全運動期間です。

あっ！

これまでは大丈夫だったけれど・・・
農作業事故は自分にも起こるかもしれない！

「歩行型トラクタ」挟まれ事故



障害物の確認！後進はゆっくりと！

「乗用トラクタ」転落事故



安全フレーム・シートベルト！ブレーキ連結！

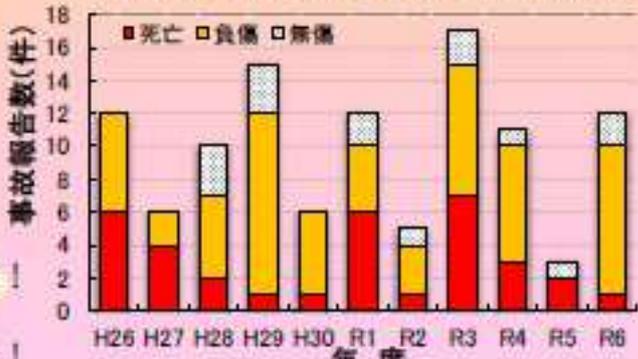
★ 鳥取県における農作業中の重大事故

原因別割合 (H26～R5)

原因	割合
乗用トラクタ	35%
動力運搬車	28%
スピードスプレーヤ	13%
その他	9%
耕うん機	6%
刈払機	6%
熱中症	3%

- ◎ 乗用機械での横転やひかれ・挟まれ事故が多い。
- ◎ 死亡事故は70歳以上が大半
- ◎ 農閑期の圃場準備でも事故発生

鳥取県内の農作業事故報告数の推移



(社) 穀担量推移

年度

※県に報告のあったもの(※R6年度は12月15日現在)

鳥取県農作業安全・農機具盗難防止協議会

事務局 鳥取県農林水産部経営支援課 電話0857-26-7327
 JA鳥取県中央会農業くらし対策室 電話0857-21-2607

令和7年1月発行

自分自身が注意するのはもちろん、家庭や地域などでも声をかけあって、みんなで農作業安全に取り組みましょう！

【トラクター】

安全作業のポイント！

- ① **安全キャブ・フレームとシートベルト着用の徹底**
(安全キャブ・フレームとシートベルト着用で、万が一の突発的状況でも死亡事故を回避)
- ② 危険箇所のチェック
(移動経路やほ場の危険箇所を事前確認及び共有し、改善・補修や目印の設置など)
- ③ ほ場進入路の幅・勾配の改善・補修
(トラクター事故で最も多い転倒転覆は、ほ場出入り時に発生)
- ④ ほ場作業が終わったらブレーキ連結
(ブレーキ連結は、必ずほ場を出る前に実施)
- ⑤ **低速車マークや反射板(シール)を装備**
(自動車から見にくいいため、道路上で追突される事故が発生)
- ⑥ 公道走行は、機械の大きさに応じた免許が必要
(幅1.7m、長さ4.7m、高さ2.0m、最高速度15km/時を超える機械での公道走行には大型特殊免許が必要)



【動力運搬車・スピードスプレーヤ】

安全作業のポイント！

- ① **発進前に走行レバーの進行方向と緊急停止の方法を必ず確認**
(逆方向に動いてあわてて停止できず、ひかれ、挟まれによる事故が多い)
- ② **前進・後退時には進行方向や足下の状況を必ず確認**
(転倒や物と機械の間に挟まれる事故を防ぐため、進行方向や足下の障害物に注意)
- ③ エンジン始動時の操作レバーは中立
(始動時の急発進によるひかれ、挟まれによる死亡事故が多い)
- ④ 発進時にハンドルの向きを必ず確認
(思っている方向と逆に動く危険なため、走行前にハンドルの位置を必ず確認)
- ⑤ 道路上の走行はなるべく避ける
(公道を走れる機種と、走れない機種があることに注意)



★非常時は、誰しもあわてて冷静な判断が難しくなります…
日頃から命を守る行動を重視し、トラブルの際は無理せず、必ずエンジンを停めて対応しましょう！

農機具盗難にも注意！

農機具は目につきやすい場所に置かず、使用後は鍵のかかる小屋や倉庫に保管しましょう。

協議会からのお知らせ【農作業安全研修の希望について】

農作業事故防止のため、協議会では農業者や農協や法人等を対象にした対顔型研修の実施を推進し、生産者の安全意識向上を図っています。
研修を希望、また詳しく知りたい方は県協議会事務局へお問い合わせください。

<対顔型研修とは>

日頃危険と感じている作業・機械操作・施設等について、仲間と話し合いながら情報共有するとともに、組織で取り組む安全行動を定めて、農作業安全に対する取り組みのレベルアップを図るきっかけとしてもらうものです。